

平成15年12月5日  
原子力安全対策課  
(15-97)  
<10時30分記者発表>

## 大飯発電所1号機の原子炉停止について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

### 記

大飯発電所1号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力117.5万kW）は、定格熱出力一定運転中のところ、平成15年12月4日20時頃から、D-1次冷却材ポンプのスタンドパイプ\*<sup>1</sup>内の水位が低いことを示す警報が5～6分に1回の間隔で発報し始めた。

その後、1次冷却材ポンプの他パラメータには異常はないことから、監視強化をしていたが、スタンドパイプ水位低を示す警報の発報間隔が更に短くなる傾向を示していること（1回/4分）、5日4時45分より格納容器サンプAの水位上昇率が増加したこと、また、D-1次冷却材ポンプの下部床面に水溜りがあることを確認したため、5日9時20分、計画的に原子炉を停止し、D-1次冷却材ポンプのシール部\*<sup>2</sup>の点検を行うことを決定した。

本日5日9時35分に電気出力の降下を開始し、9時51分に原子炉を停止した。

なお、スタンドパイプの水位が低下している原因は、第3シールの機能が低下していることが考えられ、このため、1次冷却材ポンプから水が格納容器内に漏えいし、格納容器サンプAの水位が上昇していると推定されている。この事象による環境への放射能の影響はない。

\*1) スタンドパイプ

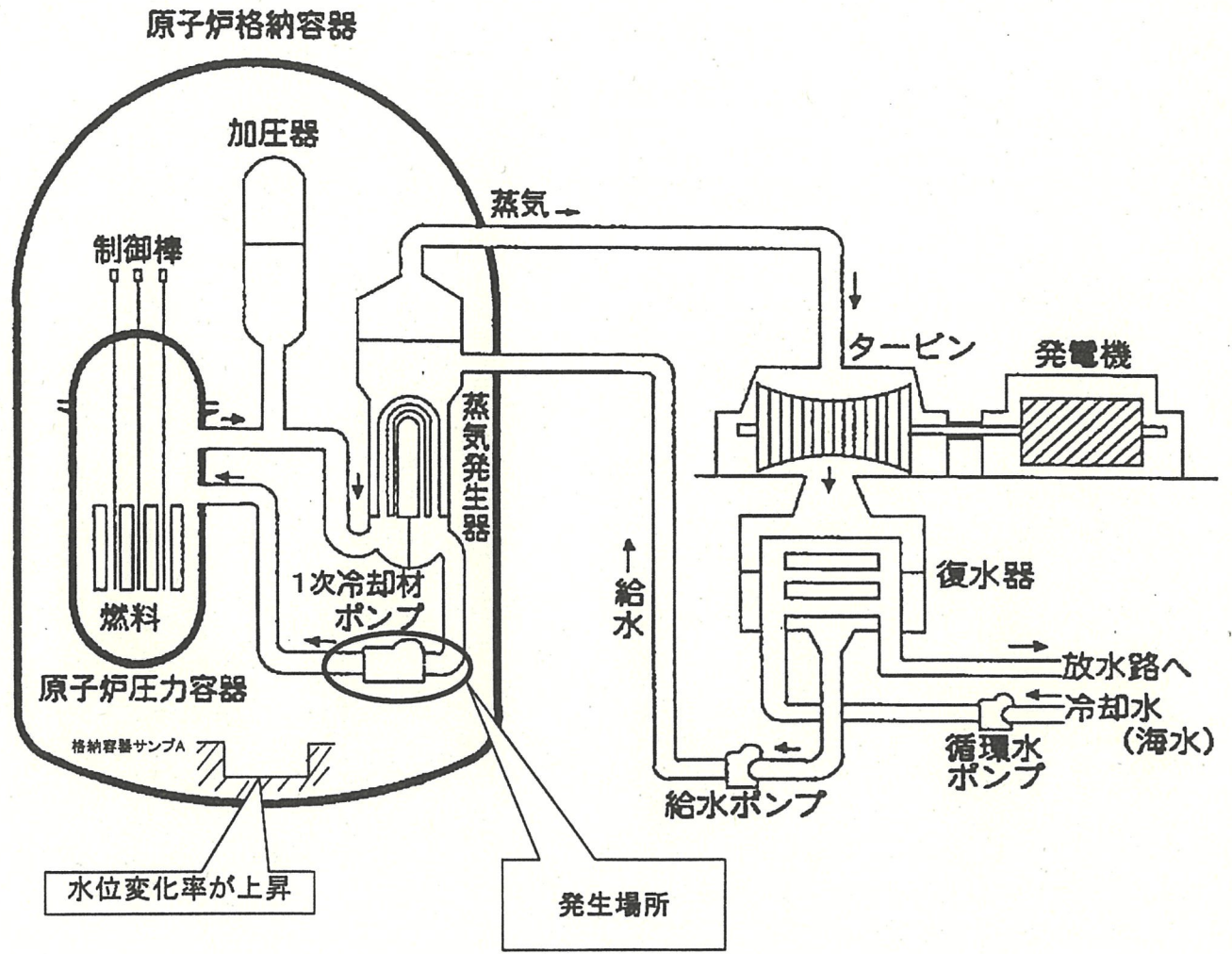
1次冷却材ポンプのシール部（第2段と第3段シール部の間）と配管で接続されており、シール部内の水量を監視するために取り付けられた筒状の容器で、水位低の警報が発報する度毎に、シール部の潤滑のため水を補給している。

\*2) シール部

ポンプ本体の摺動部と軸とのわずかな隙間に、高圧の水（封水）を注入することにより、1次冷却水が系外に流出することを防止する機能を持つ。また、第1～3の3段階のシールで構成される。

問い合わせ先(担当：嶋崎・小西)  
内線2354・直通0776(20)0314

発生場所



# 1次冷却材ポンプ

